

釧路市 & バーナビー市

轟 照雄

釧路市は、カナダのバーナビー市と姉妹都市の縁組みをしてから、今年で十七年目を迎える。

両市の提携は、昭和三十八年十二月、当時の山本市長がカナダ大使館にヒルトン商務官を訪ねて、「釧路市と近距離にあるカナダと港を通じて交易を広め、両国の親善を深めていきたい」との希望を述べ、姉妹都市の紹介を依頼したことに始まる。

翌年六月、市長は、パワー駐日大使の仲介で、来日中のバーナビー市長をカナダ大使館に訪ね、都市提携について意見を交換し、両方とも工業都市をめざして今後ますます発展を期待される青年都市であること、また両市はほぼ同緯度に位置し、港を通じて比較的近距离にあることなどから、姉妹都市の縁組みを結ぶことになった。

調印は、昭和四十年九月、バーナビー市議会において行われ、両市長が盟約書に署名、永遠の発展と協力を誓い合った。バーナビー市（人口十三万人）は、ブリティッシュ・コロンビア州最大の都市バンクーバーに近接し、観光地に恵まれた美しい都市である。酪農、商業、林業が盛んで、最近では豊富な資源と水力を活

●バーナビー市

用して工業都市への脱皮を図っている。また教育に熱心で、各学校とも立派な施設を備えている。特に技術者の養成に力を注いでいるという。国際関係論の研究などで有名なサイモン・フレイザー大学も、このバーナビーにある。

一方、釧路市（人口二十二万人）は、太平洋に面し、東北海道の経済、社会、文化の中心都市。一步郊外へ足をのばすと、特別天然記念物の丹頂鶴が住む汪洋たる釧路湿原があり、阿寒国立公園の素晴らしい大自然が広がっている。

また釧路市は、港を中心とした活気にあふれる産業都市でもあり、水産業、紙パルプ、石炭などを基幹産業にもち、さらに後背地域では酪農が盛んになっている。

釧路市では、昭和五十五年七月、姉妹都市相互の親睦と文化、産業などの交流をより一層活発化するため、市民参加による「釧路市姉妹都市協議会」を設立した。そして十月、姉妹都市協議会の事業の一環として、バーナビー市との姉妹都市提携十五周年を記念するため、鰐淵市長を団長に市議会や商工会議所の代表、さらに呼びかけに応じた市民など一行三十一名からなる市民訪問団がバーナビー市を訪れた。



浴衣姿で踊りに加わるバーナビー市民訪問団のメンバー。

これまでバーナビー市とは、お互いの理解と友好を深めるため、さまざまな交流を続けてきたが、このような市民レベルでの訪問は初めての試みであった。

一行はマーシャーマン市長を公式訪問し、また記念植樹や釧路市の児童・生徒による絵画展、各施設の視察のほか、市民各層による相互交流などを通じて、市民挙げての心温まる歓迎を受けた。

一方、昨年八月には、バーナビー市からマーシャーマン市長夫妻、市議会、教育、商業など各界代表者二十五名からなる訪問団が来釧した。

一行は大勢の市民が待ち受ける中、同行したサイモン・フレイザー大学の学生が奏でるバグパイプの音に合わせて手を振りながら空港口ロビーに現れ、鰐淵市長らと再会を喜ぶ固い握手を交わした。

訪問団は、五日間にわたり滞在し、市議会会議場における歓迎式をはじめ、市民交流会、茶話会、施設見学、伝統芸能の鑑賞などさまざまな行事の参加やショッピングなどを通じて、多くの市民とふれあい、相互の理解と友好の輪を広げた。

中でも特に市民との交流を深めたのは、釧路の夏のフィナーレを飾る「くしろ北海盆踊り」に浴衣姿で踊りの輪に加わって市民に気軽に話しかけ、「市民外交」を繰り広げたことである。

姉妹都市バーナビーをこれほど印象づけた交流はなかっただろうと思われる。

また、今回の訪問団の滞在中に両市の教育委員長同士の話し合いの場が持たれ、昭和五十七年から交互に十名程度の高校生を派遣することになった。

この高校生の相互派遣については、釧路市から姉妹都市提携十五周年を記念して市民訪問団がバーナビー市を訪れた際、鰐淵市長とマーシャーマン市長との間で約束が交わされていたものである。

第一回目は、今年の夏休み中二週間程度、釧路市からバーナビー市へ出発する予定である。

これまで、どちらかと言えば限られた人々だけの交流が多かったが、今回のこの学生派遣を契機として、より幅広く市民同士がお互いに触れ合い、理解し合えば、と期待している。

同じ北方圏に住む仲間同士として、よ

（釧路市役所秘書課秘書係長）